

令和 4 年 5 月 28 日現在

機関番号：23804

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K11961

研究課題名（和文）日本デザイン政策の研究アーカイブの構築

研究課題名（英文）Design a Research Archive of Design Promotion Policy in Japan

研究代表者

黒田 宏治（KURODA, Kohji）

静岡文化芸術大学・デザイン学部・教授

研究者番号：40329553

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：終戦直後から2000年代に至る期間の日本のデザイン振興政策の資料・情報を収集・整理し、デザイン振興政策アーカイブを構築した。現在325件の文献資料が収録されている。デザイン振興政策、関係事業の当事者へのインタビュー調査を行い、文献資料には記述されない施策・事業の背景・経緯等の現代史の証言を収集・記録した（14件）。デザイン振興政策をテーマにした3度の学術シンポジウム等を開催し、デザイン振興政策アーカイブの紹介および研究活動の活性化に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1) 戦後日本のデザイン振興政策に関する文献資料について、初めて体系的に収集・整理・公開することができ（アーカイブ化により）、同分野の基礎的な研究情報環境を整えることができた。
(2) デザイン振興政策アーカイブの構築（ウェブ化）および関連の学術シンポジウム等の開催を通じ、デザイン政策分野の研究ネットワークの端緒を開くことができた。

研究成果の概要（英文）：We collected and organized the literature on Japanese design promotion policy from immediately after the end of the war to the 2000s, and built a design promotion policy archive. Currently, 325 documents are recorded. We conducted an interview survey with the parties involved in the design promotion policy and related projects, and collected and recorded the background and processes of the policies and projects (14 cases). We held three small research meetings on the theme of design promotion policy, and worked to introduce the design promotion policy archive and revitalize research activities.

研究分野：現代デザイン史 デザイン政策 社会デザイン 地域デザイン

キーワード：デザイン史 デザイン政策 デザイン行政 通商産業省 日本産業デザイン振興会 アーカイブ デザインプロモーション

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年、アジア各国において日本のデザイン政策が評価され、グッドデザイン賞の制度導入が進行しつつある。にもかかわらず日本国内では、十分な評価が得られていない。一方、地域デザイン史研究が進められるなか、地域毎のデザイン振興の経緯等は明らかにされつつあるが、政策事業評価には難しいところがある。いずれも国のデザイン政策への体系的学術的な研究評価がなされていないことに要因が求められる。

しかしながら、デザイン政策の研究調査を行おうとすると、関連資料調査の難しさが立ちはだかる。多くは少数部数の関係者配布であったと思われ、専門機関、大学図書館での体系的資料収蔵もなされていないのが現状である。当時の記憶・記録が薄れつつある今日、日本デザイン政策の関係資料の体系的集約・公開が喫緊の課題である。

2. 研究の目的

本研究では、終戦直後から高度経済成長を経て 2000 年代に至る期間、デザイン政策を立案・推進する通商産業省と実施機関である日本産業デザイン振興会等によって展開されたデザイン行政施策事業等に関する関係資料を発掘・収集し、主な政策資料を公開し、日本のデザイン政策、デザイン振興行政が、なぜ、どのように成功したか、また何故に近年に至り停滞したかを探るべく研究プラットフォームの形成に資することを目的とする。

3. 研究の方法

デザイン奨励審議会答申やデザイン政策実施にあたっての方針説明書、調査報告書、事業報告書等の基本的資料・関係資料を収集する。あわせて当時の政策立案担当者、事業実施担当者へのインタビュー等を実施することにより、文献資料では掘り取れない背景や経緯等を記録する。それら資料・情報をデジタル化し、ウェブサイトを通じて公開する。そして、学術シンポジウム等を開催するなどして、デザイン政策研究の推進に向けての論点抽出・整理を行う。関連の研究活動が活性化していく契機を作る。

尚、G マーク関係、意匠制度関係、産業工芸試験所等試験研究関係は、既に情報の整理・公開が進められており、今回は主要な資料の紹介にとどめた。

4. 研究成果

(1) デザイン振興政策アーカイブ (<https://design-archives.jp/>)

本研究では、主に 1950 年代から 2000 年代までを視野に、通商産業省を中心に国の関係で取り組まれてきた内容を中心にした (図 1 参照)。アーカイブは、文献検索、デザイン振興のあゆみ、視点・論点、研究フォーラムの 4 つの部分から構成されるが、ベースは文献検索の部分であり、次のような資料収録に努めてきた。審議会答申や関連法資料などの政策基本資料、個々の施策・事業の企画書・説明書などの施策説明資料。各種施策展開や振興事業実施の記録をとりまとめた事業報告資料、施策・事業の検討経過や研究会報告などの調査報告資料、関係の情報記録を編纂した資料集やマニュアル等の情報記録資料。関係の広報印

刷物やパンフレット、振興機関の設立・運営資料、デザイン振興政策に関する論説・論評記事など。

収録資料の政策分野は15分野を設定した。

1.政策体系、2.輸出振興、3.地域振興・中小企業、4.国際交流、5.人材育成、6.デザイン産業、7.デザイン方法、8.デザインマネジメント、9.グッドデザイン賞、10.デザイナー、11.地方

産業デザイン開発、12.デザイン課題動向、13.消費者・生活者、14.デザインイベント、19.その他、である。現在までのところ、収録数の上位3位は、地域振興・中小企業(83件)、デザイン課題動向(54件)、政策体系(39件)である。現時点で資料総数325件を収録、うち資料内容まで見られる形での公開は228件である。

(成果の位置づけ、今後の展望) これまで散在していた資料、なかなか目にできなかった資料も収録され、自由に検索・閲覧できるような環境が整えられたことは重要な成果である。既存の主要研究資料データベースと比較する中で、本アーカイブには次の4点の特徴的な優位点がある。1点目は、6回の審議会答申の内容を収録できたこと。2点目は、地方産業デザイン開発推進事業報告書の掘り起こしが行われたこと。3点目は、デザイナー関係の資料掘り起こし、収録が行えたこと。4点目は、1990年代の数々の調査報告資料を収録できたこと。収録資料の拡充は今後も継続の予定である。

(2) 当事者インタビュー調査記録

デザイン振興政策の当事者・関係者に対して施策・事業の背景・経緯等についてインタビュー調査を実施した。調査記録(現代史の証言)はアーカイブに収録するとともに、調査研究報告書にとりまとめた。

3度の世界デザイン会議を振り返る—ICSID'73 京都を中心に(木村一男)

剣持勇とデザイン行政はじまりの頃(松本哲夫)

地方産業デザイン開発推進事業の始まりと展開(田中義信)

地場産業振興とデザイン JAPAN ブランドを中心に(山村真一)

国際デザイン交流協会設立の頃を振り返る(森山明子)

1989年のデザイナーを振り返る(日高一樹)

1980年の小城羊羹のパイロットデザインを振り返る(釜堀文孝)

高山と旭川の家具デザイン振興に携わって(川上元美)

1970年代前半の日本産業デザイン振興会(青木史郎)

'89デザイナー運動に併走した5年間を振り返る(青木史郎)

Uラインの商品デザイン事業を振り返る(北市博之)

Uライン・デザインからの事業展開(齊官慶一)

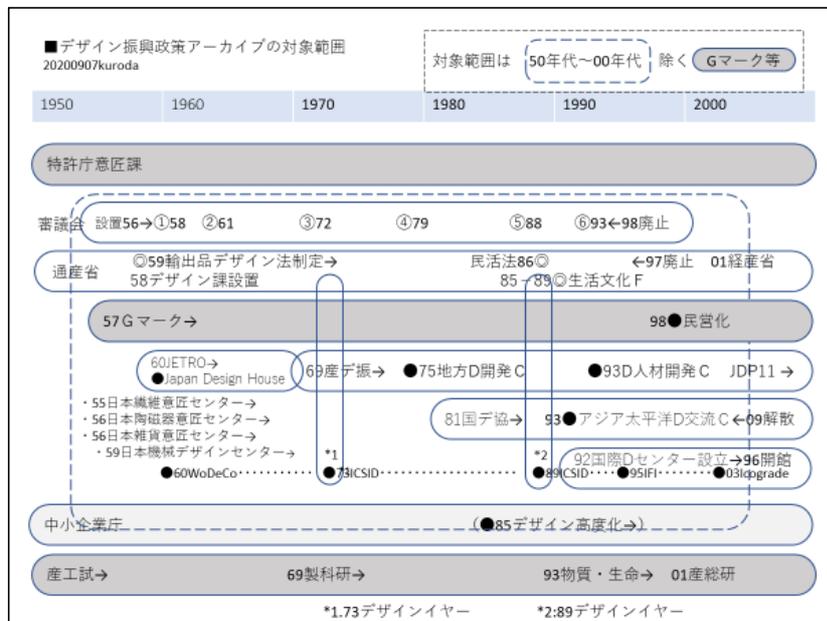


図1: デザイン振興政策アーカイブの対象範囲

石川県におけるデザイン振興をめくって（松山治彰）

[資料] 韓国・産業デザイン関係法（解説・青木史郎）

（成果の位置づけ、今後の展望）文献資料に記述されない施策・事業の背景・経緯・成果・課題等の抽出・記録化が行えた。文献資料と補完しあいデザイン政策研究の深化が期待される。

（3）学術シンポジウム等の開催

GOOD DESIGN EXHIBITION 2019 トークイベント「日本のデザイン政策の歴史～デザイン振興政策アーカイブ活動から～」**2019年11月2日**、東京ミッドタウン・ホール

第一部 基調報告「日本のデザイン政策研究のこれからを考える」黒田宏治、青木史郎

第二部 公開インタビュー「**90**年代のデザイン政策と振興を聞く」黒田宏治、青木史郎、藤本清春、宮崎修二

2020 芸術工学会 **2020** 夏期大会「行政とデザイン」**2020年8月1日**、東京ミッドタウン・デザインハブを拠点に **ZOOM** 開催

第一部：「日本のデザイン行政・振興活動の歩み」黒田宏治、青木史郎

第二部：「豊かな社会を創るために——行政・産業・学術、市民の連携」（特別講演）

Prof. Kun-Pyo LEE（香港理工大学 設計学院 院長）

第三部：「政策をデザインする時代」（パネルディスカッション）

橋本直樹、中山郁英、横山和大 / 黒田宏治（コーディネーター）

日本デザイン学会 **OPEN SIG 2021**・プロモーションデザイン研究部会「デザインの行政、行政のデザイン」**2021年11月6日**、**ZOOM** 開催

報告1：「デザイン振興政策アーカイブの構築」黒田宏治、青木史郎

報告2：「Gマーク・フォーカス・イシューの概要」秋元淳

（成果の位置づけ、今後の展望）研究期間中**3**度の学術シンポジウム等を通じて、デザイン振興政策アーカイブの紹介・発信、デザイン振興政策の討議・情報収集が行えた。また、関連分野の研究者等の参加・討議を通じデザイン政策研究活性化の契機となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 黒田宏治、青木史郎、余剣	4. 巻 81
2. 論文標題 デザイン振興政策アーカイブの構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 芸術工学会誌	6. 最初と最後の頁 66-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青木史郎、黒田宏治、余剣	4. 巻 81
2. 論文標題 「'89 Design Year」運動と地域への波及効果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 芸術工学会誌	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 黒田宏治	4. 巻 82
2. 論文標題 行政とデザインのこれからに向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 芸術工学会誌	6. 最初と最後の頁 138-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 黒田宏治	4. 巻 82
2. 論文標題 デザイン振興政策アーカイブの試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 芸術工学会誌	6. 最初と最後の頁 98-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青木史郎	4. 巻 82
2. 論文標題 日本デザイン行政・振興政策の特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 芸術工学会誌	6. 最初と最後の頁 102-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田宏治	4. 巻 79
2. 論文標題 山中漆器・デザイン開発推進事業の評価をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 芸術工学会誌	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木史郎、黒田宏治、蘆澤雄亮、余剣	4. 巻 79
2. 論文標題 「デザイン奨励審議会・答申」にみる生活者視点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 芸術工学会誌	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木史郎、黒田宏治、蘆澤雄亮、熊娜、余剣	4. 巻 84
2. 論文標題 デザイン行政開始の経緯とその政策理念 - - 日本のデザイン行政と振興活動の展開 (その1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 芸術工学会誌	6. 最初と最後の頁 35-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田宏治、青木史郎	4. 巻 83
2. 論文標題 通産省とインダストリアルデザイン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 芸術工学会誌	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木史郎、黒田宏治、余剣	4. 巻 83
2. 論文標題 地場産業へのデザイン導入を図る2つの政策とその意義 - 行政によるデザインへの理解とその変遷 (その3)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 芸術工学会誌	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 黒田宏治、青木史郎、余剣
2. 発表標題 デザイン振興政策アーカイブの構築
3. 学会等名 芸術工学会2020年度秋期大会 (神戸)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青木史郎、黒田宏治、余剣
2. 発表標題 「'89 Design Year」運動と地域への波及効果
3. 学会等名 芸術工学会2020年度秋期大会 (神戸)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 黒田宏治
2. 発表標題 デザイン振興政策アーカイブの試み
3. 学会等名 芸術工学会2020年度夏期大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青木史郎
2. 発表標題 日本デザイン行政・振興政策の特徴
3. 学会等名 芸術工学会2020年度夏期大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 黒田宏治
2. 発表標題 山中漆器・デザイン開発推進事業の評価をめぐって
3. 学会等名 芸術工学会2019年度札幌大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木史郎、黒田宏治、蘆澤雄亮、余剣
2. 発表標題 「デザイン奨励審議会・答申」にみる生活者視点
3. 学会等名 芸術工学会2019年度札幌大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒田宏治
2. 発表標題 通産省とインダストリアルデザイン
3. 学会等名 芸術工学会2021年秋期大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木史郎
2. 発表標題 地場産業へのデザイン導入を図る2つの政策とその意義 - 行政によるデザインへの理解とその変遷 (その3)
3. 学会等名 芸術工学会2021年秋期大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田宏治
2. 発表標題 デザイン振興政策アーカイブの構築
3. 学会等名 日本デザイン学会OPEN SIG 2021 (招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 黒田宏治 (編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 黒田宏治 (静岡文化芸術大学)	5. 総ページ数 126
3. 書名 日本デザイン政策の研究アーカイブの構築研究報告書	

1. 著者名 黒田宏治（編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 黒田宏治（静岡文化芸術大学）	5. 総ページ数 20
3. 書名 日本デザイン政策の研究アーカイブの構築（別冊）	

1. 著者名 黒田宏治（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 芸術工学会2020夏期大会実行委員会	5. 総ページ数 55
3. 書名 芸術工学会2020夏期大会「行政とデザイン」実施記録報告書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>デザイン振興政策アーカイブ https://design-archives.jp 内容構成は次の通り。デザイン振興政策アーカイブ：「文献検索」（収録資料325件）、「デザイン振興政策のあゆみ」、「視点論点」「研究フォーラム」（インタビュー調査記録等16件）。</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	和田 和美 (WADA Kazumi) (40434534)	静岡文化芸術大学・デザイン学部・教授 (23804)	追加：2018年7月9日 削除：2020年3月18日

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	青木 史郎 (AOKI Shiro)	中国美术学院・客員教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関